

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要

学校名	小坂井町立小坂井中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊	計	教員数
学級数	5	6	6	2	19	40
生徒数	195	217	215	11	638	

研究の概要

1 研究主題

21世紀を生きる確かな学び ~個に応じた学習指導の工夫~

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1 きめ細かい指導(全教科・全学年)</p> <p>研究を一部の教科の研究にしてはならないと考えている。私たちは「授業力を高めよう」を合い言葉にして、すべての授業で子ども主体の活力ある授業づくりを考えている。そのために、授業日記の表記内容 “ 目の前でわかる ” 実態把握 自己評価・振り返りを分析し、次時の授業での「個への支援」「子ども同士のかかわらせ方」を構想している。</p> <p>2 きめ細かい指導のための指導体制として</p> <p>(1) 少人数指導(1・2年数学、1・2年理科)</p> <p>基礎的な学力の定着は、積み上げが特に必要な教科であり、科学的な思考力が低下しているという実態もあって数学と理科で、1・2年生を対象に 取り組んでいる。</p> <p>(2) T・T指導(1・2年数学、1・2年理科、1~3年英語)</p> <p>最初に少人数指導ありきの発想ではなく、単元の流れの中で必要に応じ少人数化しているので、少人数指導ではないときは、必然的にT・T指導の体制になる。特にT2の働きについて工夫し、T・T指導のあり方を追究する。また、英語は町雇用のALTがいる関係で、T・T指導の体制が充実している。</p> <p>3 発展的な学習および補充的な学習</p> <p>2年、3年の選択授業(全教科)を中心に、必修教科の内容をとの関連を図った教材開発に重点を置きながら実践している。</p> <p>4 課題探求能力の育成</p> <p>全学年で実施している総合的な学習の時間で力を入れている。</p>
--

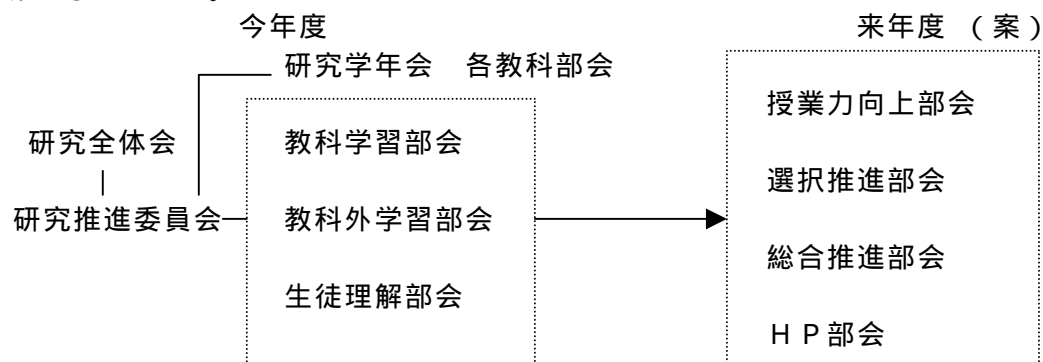
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ「21世紀を生きる確かな学び ~個に応じた学習指導の工夫~」</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の子どもの実態調査 ・研究テーマの設定及び研究の柱の構築 ・実践研究 ・成果と課題の洗い出し ・1年間の研究のまとめ <p>研究の内容・方法 上記の通り</p>
--------	--

平成16年度	<p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践研究 ・発表会への準備 ・研究発表会 ・研究のまとめ <p>研究の内容・方法 上記の通り</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

今年度は昨年度までの研究組織をそのまま継続したが、来年度は本研究のための組織再編成を考えている。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

小人数指導を初めて実践して、授業研を行い、その有効性を確認した。
 T・T指導のあり方のポイントを、T2の働きにしぼることができた。
 総合では、修学旅行に追究活動を設定するなどよりダイナミックな活動ができた。
 研究の側面として、すべての単元における評価規準表の作成 選択授業の実践一覧作成ができた。来年度のための吟味、修正の材料が整った。

2 今後の課題

授業実践が不十分である。講師招聘の全体研で、本校の研究についてのご指導や授業にもとづいた具体的な指導方法についてのご指導をいただく予定である。
 教科研や学年研を積極的に行い、授業力を向上しなくてはならない。
 学力向上の検証方法が不十分である。

学力把握のための学校としての取組

4月に2・3学年でNRTを実施する。各教科の基礎的な学力の変容を見出すとともに、各教科で重点を置いて指導すべき単元や領域を把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会の開催予定 平成16年11月18日(木)
 来年度、今年度の実績をもとにした内容で、HP作成をし開設する。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	小人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無